

〈隷書〉

（この課題で書体は自由。但し、この課目は一人一点のみとする）

井之上 南岳 先生書

星河不動天如水風
露無聲月帶樓

井之上 南岳 書

〈行書〉

山本 飛雲 先生書

星河不動天如水風
露無聲月滿樓

山本 飛雲 書

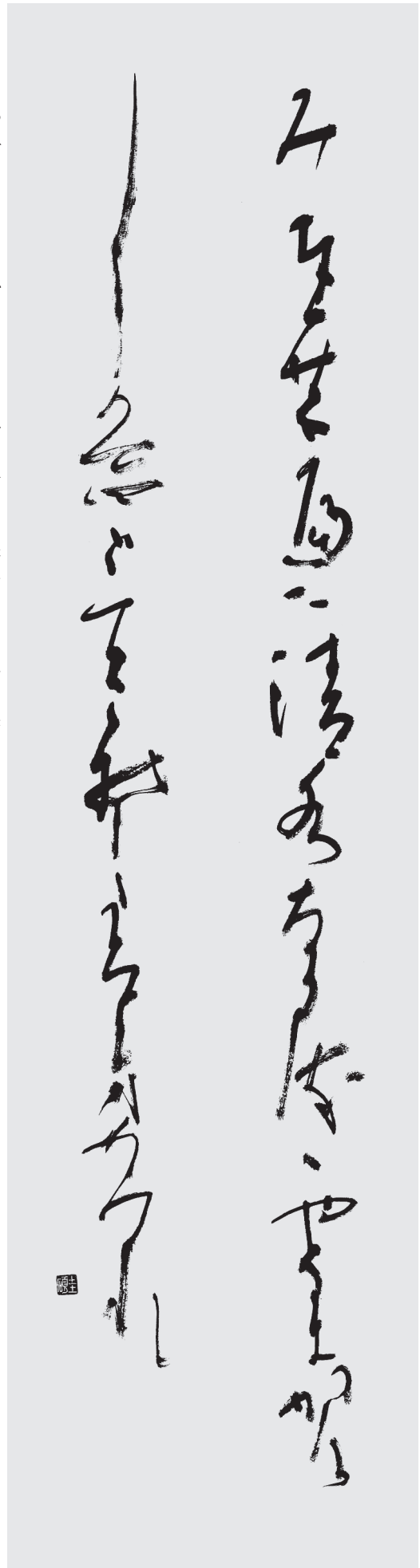
□ 星河動かず天水の如く。風露聲無く月樓に満つ。（陳安）

天の川は流れぬが天は水の如く、吹く風おりの露には声なく 月色は楼一杯にさしこんでいる。

次号予告「竹外書沙迷鶴迹 花間引水泛鷺群」

条幅随意（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする）

舟尾圭碩先生書



□ み遅農遍二 清水な可流、 やな支か介 し盤四とてこ楚 多ちと万りつれ △新古今和歌集 二六二▽

道の辺に 清水なかる、 柳蔭 しはしとてこそ 立ちとまりつれ（西行）

条幅随意（臨書）（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目は一人一点のみとする）

吉田成美先生臨



▽ 皇甫誕碑

開國首辟鄒陽燕昭建邦肇徵郭隗故得

条幅随意（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする）

吉田成堂先生書

鷗は群れぬ日もすがら 磯の青波うち浸す岩かげに また光る海

□ 鷗（抄） 三木露風の詩

鷗は群れぬ日もすがら 磯の青波うち浸す岩かげに また光る海

条幅随意（半折½横のみ）（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする）

武蔵

清原大龍先生書

□ 歡顔（顔を歡ばす）

顔をほころばす。

（唐・杜甫）

いい言葉ですね。最近忙しさや
ストレスで顔をほころばせる機会も
少なくなつたような気がします。
家庭でも社会でも「歡顔」の時を増
やしたいものです。

《手本（課題例）にとられず意欲的な作品を期待します。》

半折作品は各課目ごとに横½に一枚ずつたんで提出ください。

条幅随意（半折½）漢字・詩文書の手本は、各月交互の掲載となります。

(この課題で書体は自由。但、この課目は一人一点とする)

□ 窓を啓けば清風来る (王度)
窓を推し開けば夏の清き風が吹き入る。

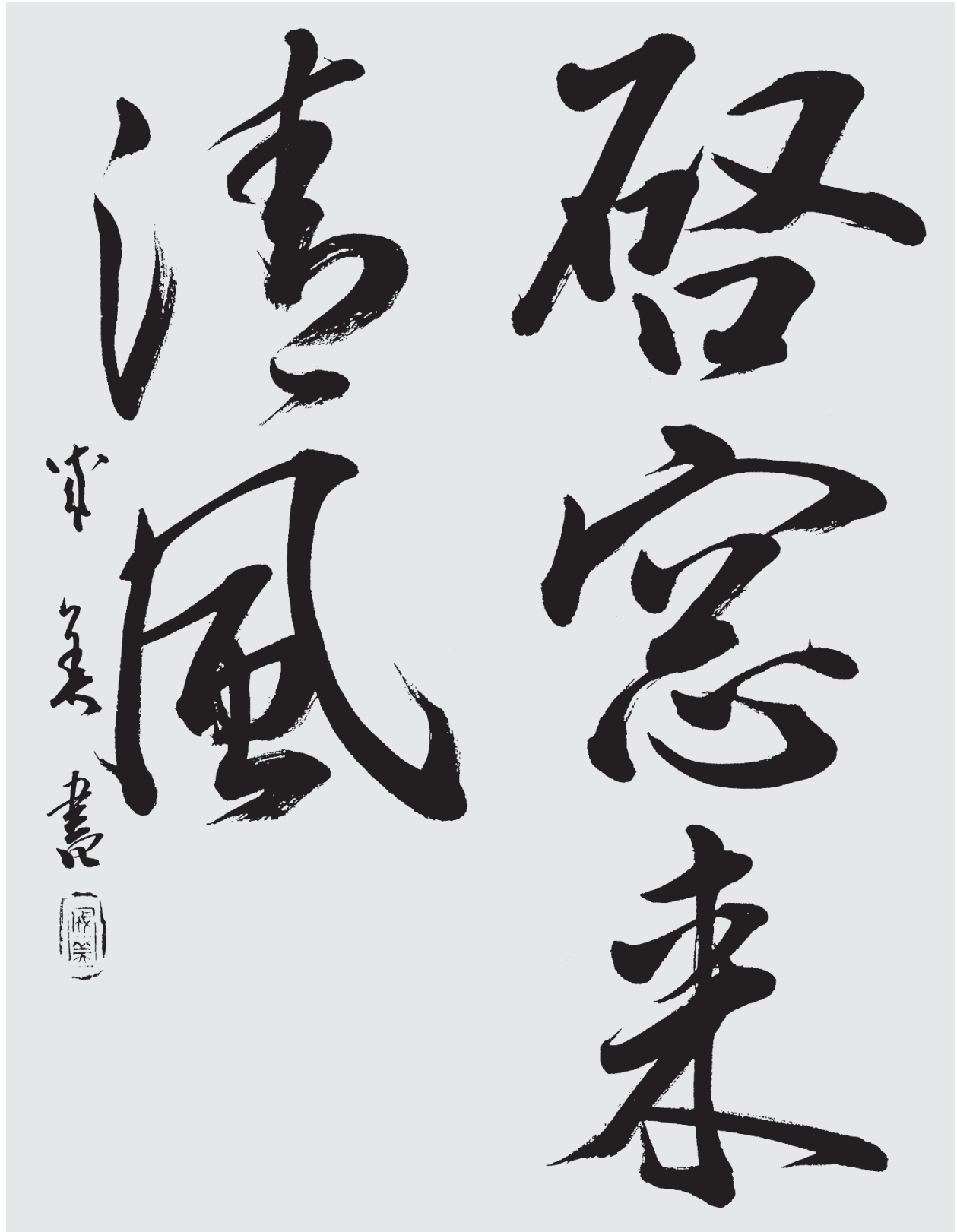


次号予告「夏雲多奇峰」

吉田成美先生書

(この課題で書体は自由。但、この課目は一人一点とする)

□ 窓を啓けば清風来る (王度)
窓を推し開けば夏の清き風が吹き入る。



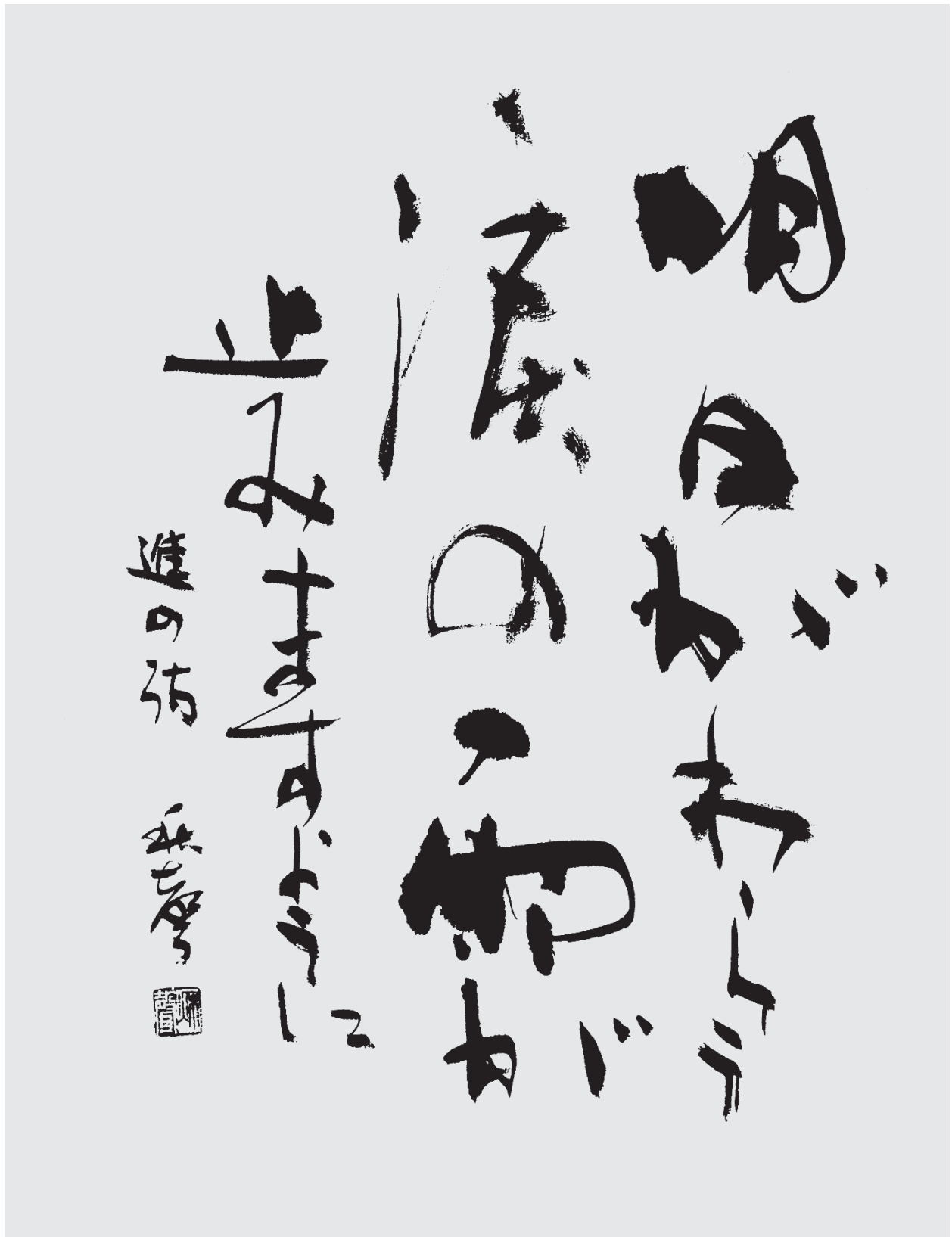
次号予告「夏雲多奇峰」

吉田成美先生書

半紙随意参考手本 — 7月末日締切 —

(この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする)

半紙随意の漢字・詩文書の手本は、各月 交互の掲載となります。



△詩文書▽
明日がわらう
涙の雨が止みますように
「わらう」並河進の詩

小 畠 秋 聲 先 生 書

（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目は一人一点とする）

▽ 皇甫誕碑

開國首辟

成美先生臨

△ 臨書▽

背勢を意識し、現代的でスマートさを表現してみよう。

「開國首辟」

吉田成美先生臨

半 紙 随 意 参 考 手 本 — 7 月 末 日 締 切 —

(この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする)

△ 仮 名 ▽

三^みちの邊^へ耳^に

清^き水^{みづ}な可^か流^るゝ

や^な那^なき可^か遣^け

志^し者^はし登^とてこそ

た^ち遅^ちとまりつれ

三ちの邊に
清水な可流ゝ
や那き可遣
志者し登てこそ
た遅とまりつれ

三ちの邊に
清水な可流ゝ
や那き可遣
志者し登てこそ
た遅とまりつれ



道
の
辺
に

清
水
な
か
る
ゝ

柳
蔭

し
は
し
と
て
こ
そ

立
ち
と
ま
り
つ
れ
(西
行)

舟 尾 圭 碩 先 生 書

(この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする)

半紙随意の実用書・手紙文の手本は、各月 交互の掲載となります

△実用書▽

雲州そろばん 備前焼 熊野筆 赤間硯
 砥部焼 丸亀うちわ 土佐和紙和

姓
号

丸亀うちわ	阿波正藍しじら織	熊野筆	雲州そろばん
土佐和紙	砥部焼	赤間硯	備前焼

(この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目A・Bのいずれか一点のみとする)

△暮らしに役立つ書▽

書譜

今年は夏の訪れが早かったですね。
“飲む点滴”として注目されてる甘酒。
冬も美味しくいただけますが、夏バテ予防
に最適だそうです。

豆乳で割ったり、お料理に使ったりと、
アレンジも楽しいですね。冷凍いちじくと
合わせたスムージーも飲み易いですよ。

お気に入りの甘酒のお裾分けです。今年
も夏バテ知らずでお過ごしください。

由美子

罫のある便箋に書いてみよう。 26 cm × 18 cm 紙質は自由。

※ 本研究社にて「特選便箋」を発売しております。本誌裏面をご参照の上、ご利用ください。

兵頭白慧先生書

(この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目A・Bのいずれか一点のみとする)

	古くから鰻は夏やせの妙薬とされて きたようである。「恋やせに鰻さかせる 筋ちがい」と戯れ歌も残る。江戸時代 には、食通を夢中にさせ、相撲よろし く、かば焼き屋の番付表も作られた。				
段 級					
氏 名					



今月のかきかたドリル

(形や注意する点に氣をつけてゆへに書いふ。)

[illegible]

一般の方も是非チャレングして欲しい。

坂元紫香先生書

(この課題以外の語句のものもよい。但し、その学年にふさわしい語句が望ましい。)

はすの花

小学4年

光るにじ

小学3年

ゆかた

小学2年

すな

ようねん・小学1年

流れる雲

中学2・3年

輝く月光

中学1年

働き者

小学6年

平泳ぎ

小学5年

秋永春霞先生書

△条幅¼ || 四尺画仙紙半折¼ : 68 cm × 17.5 cm ▽

ようねん・小学一年

次号予告「こ め」

すな

□ むすびの筆づかいに気をつけて、腕全体で伸びやかに書きましょう。

小学二年

次号予告「むぎのほ」

たゆか

□ ハライ・ハネ・トメのちがいに気をつけて、元氣よく書きましょう。

坂 元 紫 香 先 生 書

小学三年

次号予告「夕やけ」

光

□ 画の接する場所や、ハネ・ハライ・曲がり^{くまがり}に気をつけ、伸びやかに書こう。

小学四年

次号予告「青 空」

のは
花す

□ 平仮名の結びの筆使いに気をつけ、「花」のハライ・ハネはゆつくりと。

吉 田 成 美 先 生 書

小学 五年

次号予告「世界」

泳ぐ

□ イの点の位置、ハネの長さに気をつけ、永の右払いを伸び伸びと書きましょう。

小学 六年

次号予告「祈りの朝」

働く

□ イをしっかり書き、重の横画を細めに等間かくで、力の払いを長めに。

秋 永 春 霞 先 生 書

中学 一年

次号予告「人間の尊厳」

月光

□ 文字の中心に気をつけ、点画の連続を理解し、リズムに乗って思いきりよく書こう。

中学二・三年

次号予告「人権尊重」(行書)

流るる
雲机

□ 漢字と仮名の筆脈や文字の大きさを意識しながら、調和のある作品に心がけよう。

吉 田 成 美 先 生 書

「とめる」
とめる

とめる とめる

段 級										
氏 名										
	し	ま	と	た		し	ま	と	た	

小学一年

「はらう」
はらう

とめる とめる

段 級										
氏 名										

ようねん (※ようねんの方は、小学一年の課題を書いてよい。但、審査は従来通りです。)

①は、
「足」
「路」
「間をあける」
(2)

[illegible]

通学路や学校、家の中などから、記号を集めて見つけた記号を、ノートやカードに記入してあげる。	氏名
---	----

小學三年

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百

① こんの おきにとあつする
ノ、ノ、魚無 (わかな)

段級
氏名

を		お	い	出	し	た。
お	上 ^ニ		大	井	な	魚
中	を	み	ん	な	は	
か	が	ぶ	く		光	の

小学二年

小学四年

出来事や事 ^{こと} から ^{から} 主 ^{しゅ} として	だ ^だ え ^え の ^の た ^た め ^め には ^{には} 取 ^と 材 ^{ざい} を	して ^{して} 事 ^{こと} 実 ^じ を ^を 主 ^{しゅ} から ^{から} い ^い に ^に し ^し て	える ^{える} 必 ^{ひつ} 要 ^{よう} が ^が あ ^あ り ^り ま ^ま す。
段 級 氏 名			

①きき出ない ②脚をあげる
③はねる ④少しづつ出る
⑤はねる
⑥はねる
⑦はねる
⑧はねる
⑨はねる
⑩はねる
⑪はねる
⑫はねる
⑬はねる
⑭はねる
⑮はねる
⑯はねる
⑰はねる
⑱はねる
⑲はねる
⑳はねる
㉑はねる
㉒はねる
㉓はねる
㉔はねる
㉕はねる
㉖はねる
㉗はねる
㉘はねる
㉙はねる
㉚はねる
㉛はねる
㉜はねる
㉝はねる
㉞はねる
㉟はねる
㊱はねる
㊲はねる
㊳はねる
㊴はねる
㊵はねる
㊶はねる
㊷はねる
㊸はねる
㊹はねる
㊺はねる
㊻はねる
㊼はねる
㊽はねる
㊾はねる
㊿はねる

小学五年

千年以上の昔から人々は、どの	ようが、ものを楽しむ何を見て、	どんな気持ちをして、だにいた	のびして、昔の	人々の心から、あつて、あつて、あつて。
段 級 氏 名				

①はねる
②はねる
③はねる
④はねる
⑤はねる
⑥はねる
⑦はねる
⑧はねる
⑨はねる
⑩はねる
⑪はねる
⑫はねる
⑬はねる
⑭はねる
⑮はねる
⑯はねる
⑰はねる
⑱はねる
⑲はねる
⑳はねる
㉑はねる
㉒はねる
㉓はねる
㉔はねる
㉕はねる
㉖はねる
㉗はねる
㉘はねる
㉙はねる
㉚はねる
㉛はねる
㉜はねる
㉝はねる
㉞はねる
㉟はねる
㊱はねる
㊲はねる
㊳はねる
㊴はねる
㊵はねる
㊶はねる
㊷はねる
㊸はねる
㊹はねる
㊺はねる
㊻はねる
㊼はねる
㊽はねる
㊾はねる
㊿はねる

小 島 秋 聲 先 生 書

坂 元 紫 香 先 生 書

氏名	段級	
いつた、だが、来たのだらう。ハハ、人は、人の住む場所とは遠くはなれた世界です。オ、オ、木の間を抜け、森林に足をふみ入れると、辺りは夕暮暮れのように暗くなりました。		

段級	氏名
そろそろ夜明けだ。地平線が一本の金色の線のように輝きました。太陽の頭が地平線から出てくる。まるで金の皿に割った黄金の卵だ。ツイオンは思わず見とれた。	

小畠秋聲先生書